矢作川流域圏懇談会通信

R4 川部会編 vol.2

発　行　日：令和５年１月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 61 回川部会 WG を開催しました！

第 61 回川部会 WG では、地域連携モデルの方向を検討することを目的に、西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携や協力について話し合いました。また、矢作川流域におけるごみの現状について情報共有を行いました。

日　　時：令和４年 12 月 12 日（月）10:00～12:20
会議場所：岡崎市民会館　集会室　中会議室Ｂ
参 加 者：18 名（内オンライン参加３名）　※事務局を含む

◆主な会議内容

1．地域連携モデル

(1)西三河南部生態系ネットワーク協議会 活動紹介・質疑応答

西三河南部生態系ネットワーク協議会会長の谷地俊二氏より、生態系ネットワーク協議会の組織体制、活動等について説明をいただきました。主な説明事項を以下に記します。

・人間の活動により生態系ネットワークが分断されており、それを元に戻していく活動を行っている。
・生態系ネットワーク協議会は、土地所有者・開発事業者・NPOなど活動者で構成されており、愛知県内を９つの地域に区分して活動している。西三河南部は、碧南市・西尾市・高浜市で主に活動している。
・今年度は、オオキンケイギク駆除活動・探鳥会、愛知こどもの国いきものふれあい観察会、一色干潟観察会、秋のいきもの観察会を行った。
・学生にスタッフとして入ってもらっている。「GAIA」という学生団体に所属する学生も積極的に参加している。

(2)今年度の連携に向けての意見交換

①矢作川流域圏懇談会について

連携について協議するにあたり、愛知・川の会 近藤朗氏より、流域圏懇談会設立の背景について説明がありました。

・河川整備計画では河川管理者だけで解決できない課題が多くある。その課題について議論できる場として、2010年に設立されたのが流域圏懇談会である。
・河川整備は河川区域の中しか整備できない。そのため、流域圏懇談会では、河川区域内だけでは解決できないことも検討していかなければいけない。

②連携に向けての意見交換

矢作川流域圏懇談会と生態系ネットワーク協議会の連携を進めていくため、以下の観点で意見交換を行いました。

・現状の矢作川流域圏懇談会の課題点は何か？
・西三河南部生態系ネットワーク協議会との連携をとおして解決したい点は何か？
・西三河南部生態系ネットワーク協議会と協働したいことは何か？
・来年度、西三河南部生態系ネットワーク協議会と協働したいことは何か？

2．ごみ問題に関する情報共有

矢作川環境技術研究会の野田賢司氏により、矢作川流域圏と近隣流域における川・海ごみの分布と特徴について情報提供していただきました。主な情報を以下に記します。

・ 矢作川下流のごみの個数は100m当たり概ね10～20の範囲にある。
・ 豊川の河口では徐放性肥料カプセルなどマイクロプラスチックが多く見られたが、矢作川ではあまり見られない。矢作川は、愛知県のデータではマイクロプラスチックの密度が低い河川になっている。

◆話し合いでの主な意見　（• 意見　➢回答）

●地域連携モデル

＊以下、「協議会」は生態系ネットワーク協議会、「流域圏懇談会」は矢作川流域圏懇談会を指す。

・協議会に参加している企業の動きや活動について教えていただきたい。（光岡）
- ➢ メインで動いているのは、NPO 法人、漁業協同組合、行政の方々。探鳥会などで企業敷地を貸していただくこともある。企業にどうやって入っていただくかは我々の課題と思う。（谷地）
- ➢ 協議会の設立は愛知県自然環境課による呼びかけに応じた企業が参加していると思う。（近藤）
- ➢ 協議会には企業参加を促そうという方針がある。企業参加が多いのは知多半島。東部丘陵では企業敷地のビオトープづくりに協力している。（内田）

・協議会の交流会に参加した。東部丘陵など学生の活動が盛んであると感じた。（近藤）
- ➢ 学生が最も多く活動しているのは知多半島。「命をつなぐプロジェクト」という学生団体が活動しており、企業も活動している。（谷地）

・矢作川流域圏として関係する協議会は、西三河南部・西三河・東部丘陵の３地域となる。（近藤）
- ➢ ９地域の区分の問題は協議会でもあげられている。流域圏で区切るほうがよいのではとも思っている。（谷地）

・情報の発信はどのように行っているのか？（山路）
- ➢ 協力団体のメールリストを作っている。また、企業のホームページ上からの発信を行っている。（谷地）

・どうしたら連携できるかという点。協議会との連携と学生たちとの連携の２つの点がある。連携によるメリットの共有、Win-Win 関係の構築が必要。できることを流域圏懇談会としても議論していく必要がある。（近藤）
- ➢ 連携・協力を考える上で、協議会と流域圏懇談会の目標が異なる点を理解する必要がある。協議会は、現在市街地になっているところに緑地を取り込んだり、生物目線での生態系ネットワークの回復を目標としている。一方、流域圏懇談会は、社会問題や治水問題など住民を巻き込んでできること等を考えている。（内田）
- ➢ 活動や話題が地域の範囲に限られるため、地域から広げていく必要がある。生態系ネットワークの本質的なところを理解する上でも必要となることから、連携・協力できればと思う。（谷地）
- ➢ 愛知県環境部はフィールドを持っていないので、協議会はフィールドを持っている河川管理者がいるところと議論する場を作っていく必要があると思う。（近藤）
- ➢ 協議会の活動には、あいち森と緑づくり税から生物多様性回復などの活動に対して補助金が出る。（内田）
- ➢ 学生たちの情報発信の場、学習する場、流域思考を育む場として流域圏懇談会を利用するとよい。（近藤）
- ➢ 流域圏懇談会を流域圏に軸を通すプラットホームとして機能するようにできればと思う。（鷲見）

・協議会のいろんな活動が体験で止まっているという課題について、どのような課題解決を考えているか？（光岡）
- ➢ 活動時間を 1～2 時間増やして、説明する場を設けるなど。あるいは、別の機会で座学を設定するなど。（谷地）
- ➢ 我々も座学をやって現地へいくなどをやっている。座学と現地をセットで実施するとよいと思う。（牧内）
- ➢ 今後活動を進めていく上で、時間配分やプログラムの構成を修正する必要があると考えている。（谷地）

・協議会の関係者、企業や学生、漁協も含め、流域圏懇談会各部会のメンバーに入ってもらうとよいと思う。（光岡）

・協議会と連携したいことについてはどうか？（内田）
- ➢ 岡崎市が市民大学をやっている。講師とかで連携・協力していくのはどうか。（太田）
- ➢ 人間環境大学は生物関係の教員が充実している。講座の講師とかで協働の関係ができればと思う。（内田）
- ➢ ヨシ原再生のイベントで連携・協働できるのではないか。（鷲見）
- ➢ ヨシ原再生イベントはコロナの影響により関係者で実施したが、協議会と連携してやれたらと思う。（山路）
- ➢ 学びと課題解決という意味で、バスツアーへの参加を協議会にお願いしたい。上流から下流、海までの矢作川の課題についてバスツアーを通じて検討するのもよいと思う。（近藤）

●ごみ問題に関する情報共有

・岡崎市では、小学生中心の市民団体が、クラウドファンディングを活用して乙川の清掃活動を行っている。（太田）

・今年、大きな洪水があり、大量のごみが溜まった。自然ごみの上に人工ごみが溜まっていた。その年の洪水がどのレベルまできたのかによりごみ密度が違ってくる。（鷲見）

・矢作川はダムが多くあるので、流木等の自然ごみは少ないと思っている。（近藤）

・岡山県で瀬戸内海のごみについてヒアリングを行ってきた。瀬戸内海もごみが内陸からきて海に集まる。この状況をどのように発信していくかが課題となっている。（近藤）

今後の予定

■川部会まとめの会　日時：令和５年１月 31 日（火）13:00～　　場所：豊田市崇化館交流館

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 山路、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107
＊矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所調査課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。